

## 角野校区まちづくり懇談会 開催結果報告書

開催日時 平成26年8月1日(金) 19:00～20:35  
場所 角野公民館 2階大会議室  
参加者数 男67人 女4人 合計71人



### 1 校区の課題

課題名 ( 認知症高齢者徘徊について：社会福祉協議会 角野支部 藤田支部長 )

質疑応答 (要約)

近年、角野校区においても認知症高齢者の徘徊による行方不明者や、認知症高齢者を抱え介護などで苦労している家族が増えている。新居浜市でも認知症者数が4,607人、検索依頼件数が21件ある。そこで、平成25年度の角野校区地域ケアネットワーク推進協議会において、市地域包括支援センター・関係機関・関係団体と連携して認知症高齢者を見守るネットワーク(すみの見守り・SOSネットワーク)の構築を決議した。

すみの見守り・SOSネットワークでは、代表会のメンバーで先進地研修や月1回の会議を実施しているが、小地域連携支援事業助成交付金10万円により広報啓発用パンフレットの作成、会議費等について支出する予定である。

このような事業を進めるうえで、市との直接の窓口を設置してもらえないか。公民館との連携協働も大変重要と考えているが、どう考えているのか。

また、校区全体で全住民を対象とした「認知症サポーター養成講座」を実施すれば、地域住民へ啓蒙できると思うがどうか。

新居浜市は高齢者徘徊の問題をどのように捉え、今後どのような施策を考えているのか。

## ○福祉部長

行方不明者の捜索時には、防災行政無線・ケーブルテレビ、メール配信等を活用することで、市民の方に協力いただけるよう情報発信している。警察とも連携を図り対応していくが「すみの見守り・SOSネットワーク」を先進的な事例として新居浜市全体に押し広げていきたい。また、事業の直接の窓口は地域包括支援センターになるが、公民館とも連携を図りコミュニティーを構築していく必要がある。

次に、認知症サポーター養成講座であるが、国が主体となって実施してきたが現在までに6, 255人が受講しており、本市でも出前講座として位置付けし、要請があれば出向いている。

今後の認知症高齢者徘徊の見守りについて、具体的な施策はまだ固まっていないが、角野校区の取り組みを参考に、全市的にSOSネットワーク登録制度について検討していきたい。

### ※ 再検討事項

なし

課題名（西連寺地区を流れる水路の暗渠化案件について：西連寺自治会 日野会長）

### 質疑応答（要約）

西連寺・西泉地区を流れる農業用水路の一部暗渠化。

尻無川に合流する農業用水路に沿った道路は狭く、車同士の離合はもちろん歩行者との離合にも困っており、自転車の転落や脱輪などが度々報告され、また、緊急車両の進入にも時間を要している。さらに流域では新築が増え交通量も増加している。

これまでも住民アンケートを自治会で実施し、市役所にも個別にお願いをしてきた。市からは部分的な暗渠化の提案もあった。

現状において、提案のあった部分的な暗渠化実施の可否はあったのか。また、実施するのであれば、方法、工期等に関して自治会の意見を反映してもらいたい。

なお、自治会としては安全面を考慮して全面暗渠を希望する。交通量の多い区間から（約130m）年数をかけてでも良いので実施してもらいたい。

## ○建設部長

要望のあった道路は、西連寺・西泉地区生活道路として交通量が増えていることは認識しているが、農業用水路で常時蓋を掛けて道路として利用できるものか改良区とも協議した結果、構造上耐えられないため1か所10m程度で8カ所くらいなら暗渠を掛けることに同意するとのことであった。

暗渠を掛けるのであれば、水路幅の厚みが足りないことの対応、また、改修工事をするにも型枠を作るために民家の同意が必要であったり、ごみステーションの移設、樹木の伐採などの条件をクリアしなければならぬ。現状で施工可能な箇所は、自治会から提案のあった所では1～3か所程度となるため他の課所も検討しており、まとめれば自治会に

報告をしたい。また、改良区等との協議がまとまれば予算を措置し、年数はかかるが施工していきたい。

※ 再検討事項

なし

課題名（ 生子橋周辺の環境整備について：角野校区連合自治会 網干副会長 ）

質疑応答（要約）

昨年の市長の答弁を受けて、このまま放置しておいてはいけないとの思いから環境整備事業に着手（昨年度10月・2月に計2回実施）した。事業資金のない中、昨年は無償で重機、その他の機材を調達して実施したが活動には限界があった。今年度は「意欲のある地域で取り組むソフト事業」に運営資金の受給申請をして可能な限り継続していく予定である。

しかし、来年度以降の資金調達は不透明であり、事業の推進計画は不確定である。このまま角野校区連合自治会だけで事業を続けて行くしかないのか、新居浜市として環境整備を行ってくれる、あるいは支援してくれるのかを聞きたい。またこの場所はNIB（新居浜・伊予三島・別子山）観光推進協議会による花街道の新居浜側の起点であるが、現在も会は存続し機能しているのか。別子ラインの観光資源整備についての意識・取り組みについて聞きたい。

○市民部長

生子橋付近の樹木の伐採は、アダプト（里親）制度による奉仕作業で取り組んでもらいたい。交付金は、地域コミュニティの活性化としてのものであり、角野校区で有効な使い方を論議した中で活用していただきたい。

○経済部長

NIB（新居浜・伊予三島・別子山）観光推進協議会はNS（新居浜市・四国中央市）観光推進協議会となり、現在も継続して活動し山岳観光ルートを中心とした広域観光の推進で交流人口の拡大に努めている。

別子ラインの観光資源開発については、南部観光開発、別子山村との合併を経て整備してきた経緯がある。現在、端出場温泉保養センターのリニューアルを最大の優先課題としており、また、既存施設の修繕、危険箇所の復旧が優先されることから、直ちに景観にまで手を付けることはできない。基本的には、県道・河川整備は愛媛県の管轄であり予算化もされているが、整備箇所が広域に及ぶことから市の交付金事業を活用して樹木の伐採をお願いしたい。

なお、生子橋の欄干については、前回塗り替えてから20年以上が経過しているため、来年度には予算化して塗り替えをしていきたい。

○環境部長

監視カメラを生子橋左岸の待避所に設置するとともに、啓発用の看板も設置する。樹木

の伐採は、見通しも良くなり、明るくなることから、不法投棄の防止には有効であるが、市で実施するとなると段階を踏まなければならないため時間もかかるので、交付金を活用してボランティアとして取り組んでいただきたい。

※ 再検討事項

なし

### 3. その他

#### ○一般参加者から

懇談会なので市長の考えを直接伺いたいし、自治会役員以外の我々の意見も聞いてもらいたい。

#### ○連合自治会長

時間の制約もあり要望事項を絞って質疑を行ってもらった。こうした意見があったことは、連合自治会長会でも報告したい。